

# 大田原市の高校生の地域活動促進



大田原市  
一般社団法人えんがお 濱野将行さん

15班 コミュニティデザイン学科  
建築都市デザイン学科  
社会基盤デザイン学科  
グループ指導教員

川戸宏哉 佐々木美海 高橋剛志  
大久保佳美 面川颯太 熊谷泰我  
富田菜月  
石井大一郎

## 01 背景

【地域パートナーのえんがおさんが目指す社会】  
→子どもから高齢者まで、そして障がいの有無に関わらず全ての人が日常的に関わることで、あらゆる社会課題の予防と解消を目指す  
ごちゃまぜ地域コミュニティ

【現状課題】  
①若者の地域参加が注目されている中、大田原市を始めとする県北の高校生は、コロナ禍の影響もあり、地域と関わる機会が弱まっている。

②地域づくりに興味のある学生に対しては、地域活動に参加する機会があまりないという調査結果が出ている。

【高校生が地域活動に関わることのメリット】  
・地域への愛着が湧き、地域に残りたいと思うようになる。  
・高校生の新しい視点が地域活性化に繋がる。

## 02 目的・方法

高校生が地域活動に参加しやすい方法を調査すべく、以下の4つの手順で調査を実施した。



図1 ポスター



写真1 高校生との対話

## 03 成果・分析

①第1回ワークショップ【大田原市でやりたいこと会議】  
【成果】  
・10名参加  
・友人との参加者多数  
・大田原にある活動場所の認知度が上がった  
【分析】  
・積極的に取り組む学生が多かった  
・高校生自身の興味関心と関わりのある自由な提案が多かった  
・世代の異なる人と交わるようなイベント提案が多かった

②アンケート&高校生との対話  
・これまで地域活動に参加したことはあるか。(ボランティアなど)  
ある：ない=4人：5人  
・今まで参加できなかった要因にはどのようなものがあるか。  
・周囲が地域活動に参加していない  
・十分な時間がない  
・参加する時間がない  
・どのような地域活動に参加したことがあるか。  
・ゴミ拾い  
・老人ホーム訪問  
・小学生クラブの参加  
・大田原市への理解度が深まったか。  
・理解が深まったと答える学生が多かった

③第2回ワークショップ【やりたいことを実現しよう】  
【成果】  
・1名の応募だったため、イベント中止  
【分析】  
・全4回での開催だったため、日程が合わない人や長すぎたから。  
・個人での参加だったため、1人での参加の恐怖があったから。  
・イベント内容が面白くなかったから。  
・イベント周知が足りていなかったから。

④濱野さんとの意見交換会  
2回のワークショップやアンケート調査等の今年度の活動に関するご意見と今年度の反省、今後に向けてのアドバイスをいただけますか。  
高橋  
ワークショップを通して、思った以上に地域活動に興味のある高校生がいることが分かった。今後、高校生団体を作る際の参考にさせていただきたいと思います。  
しかし、ワークショップの際に高校生が自由に話す時間が少なかった点とLINEオープンチャットがうまく使えてなかった点が反省点です。  
濱野さん



図2 第1回ワークショップの様子

## 04 提案

私たちは2回のワークショップの計画・開催を通して高校生は活動場所があれば積極的に参加する。しかし、高校生にとって安心感のある活動場所を作らなければ参加することに抵抗があるということが分かりました。そこから、下記の2つを提案します。

- ①地域活動を行っている様々な団体(福祉、教育、飲食、建築など)に繋げる。  
→高校生を地域活動を行っている場所へ繋ぐという役割は、年齢が近く地域への理解度が高い宇都宮大学生にピッタリである。
- ②長期的な期間をかけて高校生が集まれる場所を作る。  
→意見交換会を通して、えんがおさんが『ごちゃまぜ高校生団体』を結成した。1期生の10名程度で来年度活動予定。